

令和7年度 韓国慶尚北道サマーキャンプ レポート

安田女子大学2年 奥 優希

今回、韓国慶尚北道サマーキャンプに参加させていただき、さまざまな国の同年代の人たちと交流し、多くのことを学びました。最初は英語でのコミュニケーションに自信がなく、会話もぎこちないものでしたが、活動を通じて多くの時間を一緒に過ごし、互いの文化や考え方を知る中で、少しずつ自分の伝えたいことを英語で表現できるようになり、英語学習の大切さや面白さを感じました。交流を深める中で特に意識したのは、相手の文化や宗教、生活習慣を尊重する姿勢です。食事の内容や挨拶の仕方、服装など、ひとつひとつに意味があることを知り、その背景を理解しようとする中で、「違うからこそ面白い」「知らないことを知るといことは楽しい」と思えるようになったのも大きな変化でした。私たち広島のメンバーは、インドネシアの参加者と行動を共にすることが多くありました。彼らはイスラム教を信仰していたため、豚肉を食べることができず、時には別々のテーブルで食事をすることもありました。これまであまり意識したことのなかった宗教や食文化について、交流を重ねるうちに自然と「この料理には豚肉が使われていないかな？」と気を配るようになっていた自分に気づきました。言語面では主に英語で会話しましたが、お互いの国の言葉を教え合い、それを使って会話を楽しんだり、お互いの国での呼び名を付け合ったりもしました。韓国語が話せる人とは韓国語で交流するなど、言語の壁を越えたコミュニケーションの工夫が、より深いつながりを生んでくれたと感じています。また、生まれ育った国は違っても、好きな音楽やアニメ、映画の話など、共通の話題で盛り上がることも多くありました。お互いの文化に興味を持ち、そのことについて自分たちの意見を交わす時間もとても貴重な経験になりました。同年代の人がいろいろと挑戦したり努力したりする姿に触れ、自分ももっと頑張りたいという気持ちが強くなり、良い刺激を受けたことです。

今後は、この経験を通して学んだことを日々の生活に生かしながら、勉強にも真剣に取り組む、自分自身をさらに成長させていきたいと思っています。そして、今回出会った仲間たちとは、これからも連絡を取り合い、お互いに良い刺激を与え合える関係を続けていきたいです。国を越えてつながる友情の大切さを胸に、これからも一歩ずつ前に進んでいきたいです。また、英語や韓国語だけでなく、この交流事業で出会った友達の住む国の言語の勉強にも挑戦し、次回会うときには、自分の言葉で少しでも多く会話ができればと思っています。文化体験や異文化交流など私たちに貴重な機会を与えてくださり、本当に感謝しています。ありがとうございました。